飛田雄一

中途半端な 青春 18 きっぷの旅

ー木曽駒ケ岳、小諸、白馬岩岳ー

●

8 月 1 日（火、2023 年)、朝 8 時半、梅田から阪急高速バスに乗った。長野県宮田、神戸大学の同級生・伊藤一幸さんを訪ねるためだ。青春 18 きっぷにしたかったが、到着が遅くなると飲む時間が減るのでバスにした。

阪急バスは宮田まで 5200 円、もちろん青春 18 きっぷより高いが、まあまあだ。新幹線等でいくと 12,110 円。また、「鉄ちゃん」的考察が、始まった・・・。

新大阪、京都経由だがそのあたりで約 1 時間、交通渋滞で遅れた。アナウンスでは、「遅れをとりもどす運転はしません」とのこと。了解です。

バスなので、本は読まない。ひたすら、音楽を聴いている。IC レコーダーには、秋にまた出演するオカリナ伴奏もばっちり入っている。

大発見があった。恵那山トンネルのことである。

このトンネルには、思い出がある。崩落事故とは関係がない。

だいぶ前に栂池にスキーにいった。このトンネルのあたりだ。何しろ長いトンネルで恐怖を感じた。

学生センターの車で、雪の中を走った。雪で見通しがきかない。運転手がのろのろと進む。どんどん追い越される。

それでいいのだが、これではなかなか着かない。私が変わった。追い越された車のテールライトをみながら、ただただ車を走らせるのだ。だいぶスピードアップした。そして塩尻峠あたり。当時は、高速がまだここまで来ていなかった。

その後、大雪のなかチェーンをつけて走った。そして、着いた。片方のチェーンがなかった。知らなくてよかった。

中央道高速は、恵那山トンネルまでは、木曽川水系を走っている。トンネルを抜けるとそこは、天龍川水系だった。宮田は天竜川沿い（飯田線)。鉄道で行くときには、いったん辰野あたりまでいって飯田線を南に下らなければならない。それが、バスでは、そのまま宮田につくのだ。

飛田は何を喜んで書いているのかを思われるだろうが、長い恵那山トンセルで木曽川水系から天竜川水系に一気に抜けたことに感動したのだ。以前のスキー運転のとき、恵那山トンネルの長さの恐怖を思い出したので、感激がひとしおだった・・・。

伊藤さん宅に、午後４時ごろ到着。畑のブルーベリーを収穫。けっこう手間がかかる。伊藤さんによるとブルーベリー農作業の９割は収穫とのこと。収穫物はゆうパックで飛田宅に送るとのことで一所懸命収穫する。私より慣れている伊藤さんの収穫物もあわせて自宅に送った。連れ合いもこれで許してくれるか‥‥。

早くも５時からビール、そして、神戸大学同窓会談義などなど。

ブルーベリー、だいぶ収穫しました／右、伊藤一幸さん／このおばけピーマン、おいしかった

●

８月２日（水)、木曽駒ケ岳登山だ。どうなるか？

ひとりで登るつもりだったが、伊藤さんが植物調査に途中までいっしょに登ってくれるという。うれしい。コンビニで昼食のおにぎりを買った。

伊藤さんの車で、菅の台バスセンターまで。すでに、切符売り場に 100 人ほどならんでいる。こんなに早くきたのに‥‥。仕方がない。一般車は、ここまで。その後は指定のバスに乗り換えて、ロープウェイ乗り場に向かう。

ロープウェイ、快適だ。７分半で、千畳敷カールにつく。快晴。

そして、歩き始める。木曽駒ケ岳山頂まで２時間のコースとなっているが、最近は、コースタイムの 3～5 割増の時間がかかる。花畑を通っていよいよ急坂にさしかかる。「八丁坂」。ここを登るとあとは楽だとは伊藤さんのはなし。

ロープウェイ駅より／イブキトラノオ／尾根につきました

尾根にでた。ここから中岳、そして木曽駒ケ岳だ。伊藤さんは中岳付近で植物調査。昼食にまた中岳で待ち合わせることにした。

コマクサがあった。以前、針ノ木岳や北海道旭岳でみたコマクサはピンクだったが、ここのは真っ赤だ。

ライチョウもいた。この地域にはライチョウがいなくなっていたが、2018 年に一羽別の山から飛んできたのをきっかけに、ライチョウ定着作戦が始まったのだ。ＮＨＫで何回かその様子をみていたので、感激ひとしおだ。ポーズをとってくれていたので、首尾よくパチリ。が、買いかえたばかりのスマホは、デジタルズームを使うとぼけてしまう。残念だ。やはり普通のカメラも持参したほうがいいかもしれない。

コマクサ／ライチョウ／ライチョウのエサを山に運ぶ後藤寛さんの記事、伊藤さんの小中の同級生だった

木曽駒ケ岳山頂、左右反転理由不明、「駒ケ岳」字が薄いのが残念／タマリンド／中岳山頂のモニュメント

帰路、駒ケ根博物館で展示会／秘密兵器製造などの「登戸研究所」（日本陸軍）が伊那に疎開していた。爆薬用。伊藤さんの家の蔵にも登戸関連の遺品がのこっている／調査会の活動報告

●

8 月 3 日（木)、朝 8 時 2 分、宮田駅を出発。きょうは、青春 18 きっぷの旅だ。小諸に向かう。「小諸なる古城のほとり」の小諸にいちどは行きたかったのだ。

宮田駅は無人駅。青春 18 きっぷは、最初の駅でハンコを押してもらうことになっている。しかたなくそのまま乗った。車内で車掌さんにいうと、手書きで「2023 年 8 月 3 日 213ML4」、そして「小木曾」のハンコを押してくれた。この 213ML4、意味が分からない。鉄道ファンの方、教えて。小木曾が、車掌さんの名前かどうかも分からない。でも、どうでもいい‥‥。

岡谷で乗り換えて小淵沢に向かう。そして小海線だ。終点が小諸。途中、ＪＲ最高地点 1375Mがある。清里と野辺山の間だ。以前、ＪＲに自転車を積んで清里まで行った。そして最高地点から太平洋まで 1 泊２日でサイクリングしたことがある。「ゆうさんの自転車／オカリナ・ブログ」にアップしている。

ウスユキソウ、伊藤さんの料理に登場、酸っぱくておいしいスープができる。神戸で買ったとのこと／野辺山駅、左右反転です／「馬流」、なんとよむでしょうか？、反転しつれい

小海線は最高地点を通るだけあって、登山列車のように登る。毛虫が大発生して列車が止まったことがあるそうだ。カーブも多い。そこでは、自動車のように警笛をならす。鹿、イノシシ、サルへの警告だったのかもしれない。

八が岳連峰を眺めながらの列車旅は、楽しい。

小諸に 12 時 17 分についた。観光案内所、そして併設のレンタサイクル店に行った。

事前にレンタサイクルを予約していた。旅先では早朝のサイクリングがいい。そのためには、1 泊 2 日で自転車を借りなければならない。電話での小諸駅の担当者は親切だった。一時間 800 円のアシスト自転車、24 時間かりるとだいぶ高くなるが、値下げを上司と相談してくれるとのことだった。店につくと 6400 円。24 時間かりたが、朝夕 4 時間ずつ乗ると計算してくれたようだ。でも、特別扱いで、ここで報告してはいけないのかもしれない。（4800 円だったかもしれない。ごめんなさい。）

小諸からだいふ山に登りました／菱野温泉がありました／馬が草をはんでいました

浅間山登山口まできました／いい天気です／すてきな夕食です

たくさん料理がありましたが、自家製の豆腐があるというのでまた注文しました／吉田類さん、渥美清さんの来た店でした

アシスト自転車で、まずはホテル（ルートイン小諸）へ。駅から急坂だが、アシスト自転車なので大丈夫。荷物をあずけてサイクリングを開始した。

山に登ることにした。適当に登った。菱野温泉、さらにのぼったら浅間山登山口にでた。「浅間山荘」の案内もあったが、例の、連合赤軍の浅間山荘とは違うようだ。

ルンルンで市街にもどってきた。アシスト自転車のバッテリーは残り 20%。バッテリーを交換してもらって、明朝のサイクリングにそなえた。

夕食、ビール、吉田類さんの「赤坂」／朝、千曲川沿いにサイクリング、この道は行き止まりでした／布引温泉釈尊寺、「牛に引かれて善光寺参り」はここが元祖だそうです

千曲川の白さぎ／いい感じです／ここにも諏訪神社がありました

小諸のうなぎ屋さん、何度も通りましたが入れませんでした／小諸高原美術館で写真展をしていました。よかったです／藤村記念館です

詩碑です、「小諸なる旅情のほとり」、最後の「濁り酒濁れる飲みて草枕しばし慰む」に安心しました／千曲川が見えます／蕎麦、おいしかった

古城のほとり、パノラマ写真をとりました

夕食は観光案内所に聞いて「赤坂」へ。案内所の方が予約してくれていた。どの料理もおいしかった。

ママが有名人のようだ。日本百低山の吉田類さん、渥美清さんとの記念写真があった。うらやましかった。

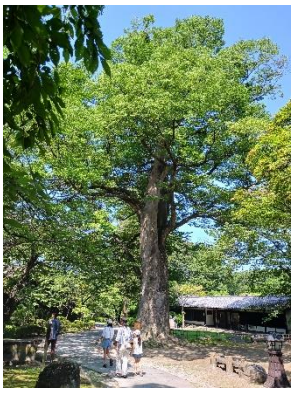
ホテルの風呂に入り、早くも８時に、寝た。

●

８月４日（金)、さすがに早く目がさめた。サイクリングにでた。

テーマは、千曲川だ。川沿いにくだって布引へ。

今度は、上流へどんどん登って白樺湖へ（ウソです)。最後は、やはり「懐古園」。島崎藤村記念館もこの中にある。昼は、園内の蕎麦屋「小城軒」。おいしかった。



いい石垣です／立派な欅／樹齢推定 500 年、幹まわり 6.5Mです

おいしい蕎麦でした／しなの鉄道等のチケット／白馬でテレビをみました、いい番組でした。爺が岳の柏原新道をつくった人、それを守る人の話だ。爺が岳には、別の道から登ったことがある

蕎麦を食べながら、白馬（岩岳）の列車時間を調べる。青春 18 きっぷで午後 1 時半ごろに乗れば行けると考えていた。甘かった。小諸・長野間は北陸新幹線開通後、ＪＲを離れ第三セクター「しなの鉄道」になっている。青春 18 きっぷでは乗れない。それで行くには、小海線、小淵沢、松本経由しかない。夜 9 時ごろの到着となる。青春 18 きっぷはあきらめた。

小諸観光案内所で何回もお世話になっている女性に相談した。いろいろ研究してくれた。

佐久平または上田から新幹線で長野、長野からバスで白馬。なんとなく新幹線はいやだ。そして、以下のコースとなった。

小諸から篠ノ井までしなの電鉄。篠ノ井から松本までＪＲ特急しなの、そしてその後各駅停車で、松本―白馬。チケットは、松本から白馬まで乗車券 1170 円、青春 18 きっぷは、12050 円、一日 2410 円。したがって、18 切符は使用せず。（失礼しました）

午後 3 時 50 分、白馬に着いた。ばっちりだ。 Booking.com で予約した宿に電話した。なんと、そこは白馬ではなくて長野。

ネットで白馬の宿がなかなかとれなくて、やっとのことでドミトリーがとれたと喜んでいたが、それは長野だったようだ。私のミスだ。しかたない。それをキャンセルした。キャンセル料がいやだが。一昨年まで学生センターで宿泊業をしていたので、よくわかる。もちろん払う。

さあ、宿さがしだ。白馬駅の観光案内所に飛び込む。ここでは宿の紹介はできないとのこと。そして、午後4時。その案内所は閉店となった。駅の売店で、もうひとつの白馬村観光案内所の電話番号をきく。そこにかける。同じく紹介はできないとのこと。

そこをなんとか、と、民宿の電話番号を２つ聞く。かけた。一軒目、ＯＫ。うれしい。道に迷ったがなんとかたどりついた。急な予約で夕食はなし。そこで、白馬駅前「絵夢・いりのや」。なかなかよかった。ほろよい気分で宿へ。そして、また早々と睡眠。

白馬駅から唐松岳をのぞむ／岩岳でレンタサイクル／ゴンドラ山頂駅、くだります

●

8 月 5 日（土)、白馬駅前からバスで岩岳にむかう。バスで 20 分ぐらいだ。8 時半には現地についた。ゴンドラ乗り場にはすでに多くの観光客がいる。

レンタサイクル店に入った。一日 10,800 円。高いがしかたない。2 時間 6800 円、4 時間 8800 円とあるので、やはり一日レンタルとなる。英語圏の若い女性が働いていた。流暢な日本語で説明をしてくれた。そのあたりでテストをしてから、ゴンドラ乗り場に向かった。

どのようにして自転車と人間がゴンドラに乗るのか、見当がつかなかった。スキーで乗るときは、スキーをかついで階段を上る。その階段、自転車を押していくことは不可能だ。聞くと、自転車専用の入り口があるという。そこに行ってみた。スロープが作られていて、そこから自転車を押して登る。

自転車はゴンドラにいれるのか？　これも分からなかったが、冬にはスキー用の金具が自転車用に改装されている。係りの人に自転車をあずけてゴンドラに乗り込むと、その金具に自転車をひっかけてくれる。降りるときはその反対で、ゴンドラから出ると係りの人が自転車をどうぞと渡してくれる。

頂上の広場にでた。最近よく宣伝している岩岳リゾート。大きなブランコ、レスト

ラン、展望テラス、サーカスのようなトランポリンなどなど。そのトランポリンは、小さい子がキャッキャいいながらジャンプしていた。
　広場見学が終わっていよいよマウンテンバイクコースだ。
　「ダウンヒルコースⅠ」。全長 6900M、標高差 521M、「初級～中級者」。

「白馬岩岳 MTB PARK メインコース、フロートレイルをコンセプトに造られた全長 6,900m のロングダウンヒルコース。斜度は緩く、木の根や岩は取り除かれ路面の凹凸が少なくとてもスムーズ。初級者から上級者まで安心して走ることのできる 1 番人気のダウンヒルコースです。各所に休憩ポイントが設置され、自身の体力に合わせのんびりお楽しみいただけます」とリーフレットにある。

　が、なかなか、ハードだった。初回は、緊張のあまり何回かころんだ。大事にはいたらなかった。まったくの初級者にはつらいだろう。なんとかくだり、再びゴンドラへ。そして、また山頂へ。そして、今度は若干の余裕をもってくだる。
　そして、また山頂へ。あまりがんばってはいけない。ランチだ。きれいなレストランだ。のども乾いたが、運転中なので、ビールは飲まなかった。

　ゆったりとした気分で 3 回目のダウンヒル。だいぶ慣れてきた。八方尾根、栂池高原も見える。そこで知り合ったビュンビュン飛ばす若い友人には、追い越すときには声をかけてといってある。
　ときどき、「追い越しますよ」と声がかかる。よける。

　時間はまだ 2 時。スキーならあと 2、3 回となるところだが、あと 1 回ということにして最後のゴンドラに乗る。ゴンドラの従業員とも顔なじみになっている。「このおじさん、ようやるな・・・」という感じか。

　最後のダウンヒルを楽しんで下界に。付近の田んぼを軽く走った後、自転車を返した。白馬駅へのバスの時間を調べていたら臨時バスが入ってきた。乗った。降りるときお金を払おうとしたらゴンドラ一日券を買った人は無料だとのこと。うれしい。
　白馬、二日目の宿は、「昇盛館」。駅から 30 秒の少々古い宿だ。宿の人が「クーラーがないんです」としきりに謝っていたが、これまでなら不要だったのだろう。でも、たしかに、暑かった。

宿の人が「みみずくの湯」につれていってくれた。その顔パスで、入湯料無料。いい湯だった。となりのグランピング施設から入りにきていた親子が、テントの暑さをぼやいていた。

唐松岳などが展望できる露天風呂が最高だった。きのうと同じ「絵夢・いりのや」で、夕食・ビール。そして就寝。ドアをあけっぱなしで寝た。さすが、明け方はすこし寒かった。

宿のポスターがすごい、左右反転は飛田のカメラです／この温泉にいきました／となりのグランピング、です

宿のテレビがすごい、１時間 100 円、ちゃんと一時間後に切れました／岩岳ゴンドラの一日券です／朝、散歩道のコスモス

●

８月６日（日）、朝、付近を散歩する。「詩の小道」が、よかった。

「詩の小径」／昔はこの川で木材を流していたと／いい感じです

柵のストックが白馬らしいです／おいしそうな魚が泳いでいました／きれいです

かやぶきの家も／道祖神です／いい感じです

白馬駅のこの展示をみて「詩の小径」にいきました／ここで白馬雪渓用のアイゼンレンタルもしていました。1000 円＋保証料 500 円、山頂で返却も可です。ご主人が「岩岳マウンテンバイクで事故多発」と言っていました／「詩の小径」案内図

そして、神戸に帰る。また青春 18 きっぷの旅だ。

7 時 43 分に白馬駅から乗る。すでに何回もきている大糸線。快晴で最高。

松本駅で、駅そば。これがまずかった。仕方なく、サンドイッチとビールを買って、中津川行きの列車にのった。旅のつかれでねむってしまった。木曽川の「寝覚めの床」、いつもアナウンスがあるが、それをしらずに寝ていた。

名古屋からは 14 時 34 分発、米原行き。それほど混んでない。ゆったりと読書、新聞（信濃毎日新聞）、IC レコーダー（ウオークマン）、そして小諸、白馬など観光案内所でゲットしたパンフレット。一冊だけ持って行った成川彩『現地発　韓国映画・ドラマのなぜ？』。今回はそれらを読了した。なかなかおもしろかった。

木曽駒ケ岳、小諸、岩岳マウンテンバイク。今回の目標はすべて 100%完遂。よき旅であった。六甲道からバスでわが家へ。カギを忘れて家をでたが、入れてもらえた。

ビールとサンドイッチ／成川さんの本、左右反転失礼／だいぶころんだ、ようです

中途半端な 青春 18 きっぷの旅

―木曽駒ケ岳、小諸、白馬岩岳―

2023 年８月２０日発行

編集・執筆・発行　飛田雄一

〒657-0011 神戸市灘区鶴甲 4-3-18-205

e-mail　hida@ksyc.jp